

# 2023 年度 マラソン大会 開催



はぐるま

今年のマラソン大会のテーマは「せいいっぱい走りきろう、せいいっぱい歩ききろう」でした。種目を10km、5km、1kmで設定しました。10kmは5年ぶりの挑戦になります。今まで何度も10kmに挑戦してきた仲間、年齢を重ねて短い距離の方が力を出し切ることが出来る仲間、初めて挑戦する仲間など、それぞれが今持っている力を発揮する大会にしようと思ってきました。当初、折り返し地点がスタートから5kmの場所にあったところを2.5kmに変更し、走る仲間同士が何度もすれ違えるようになったことで応援しあいながらゴールを目指しました。

本番当日はなかなか雨がやまず、タイムスケジュールや距離の大幅な変更があったマラソン大会となりました。応援に来て下さったご家族の皆様にも、アナウンス不足でご迷惑をおかけいたしました。

そんな中でも、全員が参加することができ、大きな混乱や事故もなく終わることができました。せせらぎ館を管理しているNPO法人多摩川エコミュージアムの皆様には準備の段階から大変ご協力いただきました。当日も昼食の提供だけではなく、待機する場所の調整などもしてくださり安心して開催することができました。応援に来てくださった、ご家族の皆様、ゲストランナーの皆様から暖かく力強い応援をいただきました。仲間たちの大きな励みとなりました。



NO.122

2024年3月29日

社会福祉法人  
はぐるまの会  
広報委員会

川崎市多摩区菅馬場

1-19-24

TEL

044-946-1308

実行委員では毎週委員会を行い、これまでの経験をもとにベテラン仲間が若い仲間を引っ張り、時には注意し教えながら、練習から本番まで、今まで培った力を発揮し、仲間主導で進める場面が多くありました。

### 仲間たちの感想

「天気の変更は仕方ない」「走りたかった仲間の気持ちもわかる」「天気が悪くても走れてよかった」「みんなが参加できてよかった」「来年は10km走りたい」「ゲストラランナーの人と走れてよかった」と話していました。どんな形でもたくさんの方に応援してもらえてうれしい。みんなのできることは楽しいという気持ちで仲間たちがマラソン大会を楽しみにしている理由なのだとわかりました。毎日の運動の積み重ねで10kmに挑戦することができ、変更に対応する力も日々の活動の中で培っていることがわかりました。改めて、仲間たちのたくましさを感じることでできた大会でした。練習から本番まで、雨に悩まされた大会になりましたが、皆様のご協力のもと、無事開催できたことに感謝いたします。

マラソン実行委員

金田絵美



おいしい  
ごはんを  
ありがとう！



みんな、よく待った！がんばった！





## 事業計画について

季節外れの陽気に包まれたかと思えば、積るほどの雪が降ったりと、気候のほうはこれまでの経験則が役に立たないほどおかしくなっているようにも思います。自然のことなので、計画的、とはいきませんが、法人運営のほうはできるだけ計画的に進めることによって予想外の出来事に仲間の生活が振り回されないようにしていきたいものです。

新しい年度を迎えるにあたって、毎年、事業計画を作成しています。さらに、「中期計画」として三か年の計画を先に立てており、それにより法人としてどの方向に向かっているかをみんなが理解し、到達度を把握でき、思い付きではない安定した経営計画を立てることができず。はぐるまではこの中期計画を毎年見直し、修正を重ねて次の三か年の計画を立てています。

毎年これらの計画を立てる際に、管理者が中心になって作成するわけですが、先に述べたようにこの計画をみんなが把握し同じ方向を向くことに意義があると

思っています。職員一人ひとりが運営に参画している意識も高めていきたいところであります。

去る2月8日、常勤職員全体の集まりを設け、中期計画を作成するにあたり、職員の意見出しを行いました。現状のはぐるまの良いところと、変えていくべきところを出し合い、その上で3年後にこうありたいというはぐるまの姿を想像してみよう、という流れで進めました。

若手グループ、ホーム所属グループ、ベテラングループなどに分かれて話しをしたので、それぞれの立場で率直な意見を出し合えたと思います。その内容を活かして、中期計画をたて、事業計画に落とし込み、役員会に諮っていきます。後日みなさまにもご報告ができると思います。

さて、出た意見の中では、共通していることがあり、そこに注力していくべきだと考えています。一つは、はぐるまの方向性はどこに向かっているのか確信を持っていない不安感があるということですね。「仲間のために」「地域とのつながり」というキーワードはみんなが持っています。しかし具体的な支援の方法については職員の個々によって差があるのも事実

です。そしてそれは、職員の不安を募らせることに加え、仲間の不安にもつながることとなります。

迷ったときに立ち返るものとして、「理念」があるわけですが、理念をもう少し具体的にしていく必要があると感じました。すべての職員にわかりやすく、ということとは、「言うは易し」で苦勞を伴うことでしょうか、取り組まなければいけません。

このように、課題を出すことは比較的やりやすいのですが、それを解消していく具体的方策は頭を悩ませるしかありません。そして、悩んでいるだけでは何もかわらず、あきらめや不信感につながります。行動を示すためにも、中期計画、事業計画が重要になります。

これから、計画を見通しを持って立て、それとにらめっこしながら事業を推進し、都度総括をしていくというサイクルを回すには、まだまだ未熟なはぐるまです。それでも誠実に事業をすすめるながらみんなに働きやすい法人にしていきたいです。

引き続き、暖かく見守っていただきませう、よろしくお願ひ申し上げます。

## 第2ホームのこと

私が第2ホームの責任者として前任者から引継ぎをしたのが、2017年12月でした。約6年で様々な変化がありました。

2021年7月に長年ホームで過ごしていたIさんが、ご本人の希望でホームを退所し、新しいホームへ転出しました。2022年5月にはTさんが体調を崩し、療養病院へ転院。ホーム、作業所を退所されました。(今も都内の病院で過ごされています)

2023年10月にSさんが、体調を崩し、ホームで2週間点滴を受けました。(今は回復されています)

2名の仲間が退所されましたが、新しい仲間が加わり、今は全ての居室が埋まっています。

Iさんのケースは、新しいホームでの生活を、心機一転楽しみにしており、未来に希望が持てるケースでした。

TさんとSさんのケースは課題に直面したケースでした。

なによりも医療の壁です。訪問看護、

訪問診療を受けながら治療を続けていても、延命のための、中心静脈栄養や、胃ろうを選択する場合、今現在はホームで過ごすのは難しいです。また、延命のための医療を選択するかどうか、大きな問題です。①両親、兄弟がご健在の場合②健在だとしても、判断能力がない場合③後見人がいるかないか など。

いつ、誰が、どのタイミングで判断するのか。このような問題は高齢化に向けて、避けて通れないことであり、整理していかなければならぬ大きな課題です。

誰でも、いずれ高齢者になります。内臓が丈夫で記憶力がしっかりしているも、足腰が弱くて1人では立ち上がれなくなるかもしれない。足腰や内臓が丈夫でも、記憶力が衰えて、トイレの場所がわからなくなるかもしれない。その都度、仲間の状態に合わせた支援をしていく事が求められます。仲間にとって、何が幸せなのか、考えていこうと思います。

幸いにも、大きな課題を解決しなければならぬ時は、職員がチーム一丸となり、知恵を出し合い、何とか乗り越えてきました。

心も体も健やかに過ごすために、毎日の生活の中で何ができるのか、日々考えています。

未知のウイルスに翻弄された日々が落ち着いたようにみえますが、今後も予断を許しません。私たちができることは、その時の最善を考えることだと思っています。

ご家族や関係者の皆様には、今後のグループホームの在り方について、アンケートやご相談をすることがあると思います。

その際には、是非、忌憚のないご意見を、お聞かせください。ご協力のほどお願い申し上げます。

第2ホーム責任者 本岡敬子

